

(様式第 10)

島大医総第 310-1 号
平成 28 年 11 月 9 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人島根大学
学長 服部 泰

島根大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
氏 名	国立大学法人島根大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

島根大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒693-8501	電話 (0853) 23-2111
島根県出雲市塩冶町89-1	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1内分泌代謝内科 2腫瘍・血液内科 3消化器内科 4肝臓内科 5神経内科	
6膠原病内科 7呼吸器・化学療法内科 8腎臓内科 9循環器内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1消化器外科 2肝・胆・膵外科 3小児外科 4乳腺・内分泌外科 5心臓血管外科 6呼吸器外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="radio"/> 1精神科 <input checked="" type="radio"/> 2小児科 <input checked="" type="radio"/> 3整形外科 <input checked="" type="radio"/> 4脳神経外科 <input checked="" type="radio"/> 5皮膚科 <input checked="" type="radio"/> 6泌尿器科 7産婦人科 <input checked="" type="radio"/> 8産科 <input checked="" type="radio"/> 9婦人科 <input checked="" type="radio"/> 10眼科 <input checked="" type="radio"/> 11耳鼻咽喉科 <input checked="" type="radio"/> 12放射線科 13放射線診断科 <input checked="" type="radio"/> 14放射線治療科 <input checked="" type="radio"/> 15麻酔科 <input checked="" type="radio"/> 16救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1臨床検査科 2病理診断科 3リハビリテーション科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	床	床	床	570床	600床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	353人	7人	356.5人	看護補助者	43人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	10人	0人	10人	理学療法士	16人	臨床検査技師	35人
薬 剤 師	41人	0人	41人	作業療法士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	27人	2人	28.6人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	625人	27人	643.9人	臨床工学士	14人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	40人
歯科衛生士	1人	2人	2.5人	歯科技工士	0人	事務職員	199人
管理栄養士	6人	1人	6.8人	診療放射線技師	34人	その他の職員	26人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	32人	眼科専門医	8人
外科専門医	29人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精神科専門医	9人	放射線科専門医	11人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	4人	整形外科専門医	14人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	21人
産婦人科専門医	8人	救急科専門医	4人
		合 計	181人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 () 任命年月日 平成 年 月 日

--	--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	538.7人	12.2人	550.9人
1日当たり平均外来患者数	1017.1人	42.9人	1,060.0人
1日当たり平均調剤数	1,173.9剤		
必要医師数	118.195人		
必要歯科医師数	4.147人		
必要薬剤師数	34人		
必要(准)看護師数	312人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	577.71m ²	鉄筋コンクリート	病床数	14床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 222.55m ² [移動式の場合] 台数 0台		病床数	20床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 52m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	523m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学検査装置、免疫分析装置			
細菌検査室	100m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養装置、質量分析装置			
病理検査室	239m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動包埋装置、自動染色装置			
病理解剖室	57m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 感染対策用解剖台、臓器撮影装置			
研究室	14,142m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 透過電子顕微鏡、質量分析装置			
講義室	1,858m ²	鉄筋コンクリート	室数	10室	収容定員	1,446人
図書室	1,819m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	132,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日	
紹介率	86.5%	逆紹介率	64.1%
算出根拠	A: 紹介患者の数	9,692人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,337人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,567人	
	D: 初診の患者の数	13,004人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	グルコース呼気テスト	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 small ontestinal bacterial overgrowthを診断するため、グルコースを飲用しその呼気中の水素とメタンの濃度を測定する。			
医療技術名	食道インピーダンスモニタリング	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 食道内のガス及び液体の移動を検討することでGERDの診断を行う。			
医療技術名	反復経頭蓋磁気刺激による中枢神経変性疾患の治療	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 パーキンソン病、多系統萎縮症、進行性核上性麻痺等の難治性神経変性疾患に対し、運動野、補足運動野等に反復経頭蓋磁気刺激を行い症状の改善を図る。			
医療技術名	安静時機能的MRIによる認知症疾患の鑑別診断	取扱患者数	161人
当該医療技術の概要 MRIを用いて脳内神経回路の部位間の結合性を評価することで、神経疾患特に認知症疾患の早期発見に寄与する診断技術である。我々の開発した解析プログラムを使用することで、解析が簡便化され普及することが期待される。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 有棘細胞癌、乳房外パジェット病などの悪性黒色腫以外の皮膚腫瘍に対してセンチネルリンパ節生検を行い、治療計画を立案する。			
医療技術名	好塩基球活性化試験による食物アレルギーの診断	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 患者の末梢血好塩基球の活性化を指標にして食物アレルゲンへの感作状態を確認し、診断に利用する。			
医療技術名	LAMP法によるヘルペスウイルスの同定	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 単純ヘルペス、帯状疱疹の疑い例に対してLAMP法を用いて組織よりヘルペスウイルスを検出し、診断に利用する。			
医療技術名	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 従来水晶体再建術時に挿入するレンズは単焦点レンズで1点にしか焦点が合わなかったが、多焦点眼内レンズを挿入すると遠近ともに焦点が合う。			
医療技術名	肺結節に対するCT下ラジオ波焼灼術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 肺結節に対し、CT画像誘導下に結節をラジオ波にて焼灼する。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	40
2	筋萎縮性側索硬化症	12	57	特発性拡張型心筋症	18
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	3
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	5	60	再生不良性貧血	22
6	パーキンソン病	63	61	自己免疫性溶血性貧血	
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	30
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病		65	原発性免疫不全症候群	
11	重症筋無力症	27	66	IgA腎症	3
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	8
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	29	68	黄色靱帯骨化症	7
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	7	69	後縦靱帯骨化症	57
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	6
16	クロー・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	29
17	多系統萎縮症	12	72	下垂体性ADH分泌異常症	3
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	17	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	7
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	12	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	12
23	プリオン病	3	78	下垂体前葉機能低下症	44
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	6	83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	44
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	13
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	3	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	10	90	網膜色素変性症	14
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	5	92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	7
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	
40	高安動脈炎	11	95	自己免疫性肝炎	1
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病	68
42	結節性多発動脈炎	3	97	潰瘍性大腸炎	100
43	顕微鏡的多発血管炎	21	98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	8	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	5	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	5	101	腸管神経節細胞減少症	
47	バージャー病	6	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	93	104	コステロ症候群	1
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	36	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	52	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	25	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	7	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	2	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5
113	筋ジストロフィー	3	163	特発性後天性全身性無汗症	5
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ビクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリズ症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マジニス症候群	
153	難治顔回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症		208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モフト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	3	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	
224	紫斑病性腎炎		272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病		275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性蔞炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	7
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	2

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科外来診療環境体制加算	・救命救急入院料3
・特定機能病院入院基本料	・特定集中治療室管理料2
・救急医療管理加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・超急性期脳卒中加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・診療録管理体制加算1	・小児入院医療管理料2
・急性期看護補助体制加算	・緩和ケア病棟入院料
・看護補助加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・
・データ提出加算	・
・退院支援加算	・
・精神疾患診療体制加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

No.1

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・糖尿病合併症管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん患者指導管理料1	・神経学的検査
・がん患者指導管理料2	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料3	・コンタクトレンズ検査料1
・外来緩和ケア管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・内服・点滴誘発試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・センチネルリンパ節生検(片側)併用、単独
・院内トリアージ実施料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・外来放射線照射診療料	・画像診断管理加算1
・ニコチン依存症管理料	・画像診断管理加算2
・開放型病院共同指導料	・遠隔画像診断
・がん治療連携計画策定料	・CT撮影及びMRI撮影
・認知症専門診断管理料	・冠動脈CT撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・外傷全身CT加算
・薬剤管理指導料	心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料2	・外来化学療法加算1
・歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	・無菌製剤処理料
・持続血糖測定器加算	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・がん患者リハビリテーション料
・胎児心エコー法	・歯科口腔リハビリテーション料2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

No.2

施設基準の種類	施設基準の種類
・認知療法・認知行動療法1	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・医療保護入院等診療料	・補助人工心臓
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・透析液水質確保加算1	・体外衝撃波胆石破碎術
・手術用顕微鏡加算	・腹腔鏡下肝切除術
・CAD/CAM冠	・体外衝撃波碎石破碎術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)同種骨移植(特殊なものに限る。))	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・同種死体腎移植術
・網膜再建術	・生体腎移植術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・膀胱水圧拡張術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・輸血管管理料 I
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・輸血適正使用加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	杉本 利嗣	内分泌代謝内科	200,000	補委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
消化管による骨代謝制御機構の検討ーインクレチンシグナルの骨形成増強作用の解明ー	杉本 利嗣	内分泌代謝内科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
酸化ストレス・Wnt/ β -catenin経路による2型糖尿病の骨代謝異常の解明	山本 昌弘	内分泌代謝内科	780,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
骨芽細胞特異的AMPK欠損マウスを用いたAMPKの骨形成における重要性の解明	金沢 一平	内分泌代謝内科	2,080,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規海綿骨構造指標と有限要素法を活用した2型糖尿病の構造的骨質低下機序の解明	清原 信昭	内分泌代謝内科	2,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
カルシウム・リン・ビタミンD代謝異常症の検討	杉本 利嗣	内分泌代謝内科	650,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
新生児期から高年期まで対応した、好酸球性消化管疾患および稀少消化管持続炎症症候群の診断治療指針、検査治療法開発に関する研究	木下 芳一	消化器内科	2,500,000	補委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
好酸球性食道炎の病態に及ぼす胃酸の影響についての研究	木下 芳一	消化器内科	1,040,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Notchシグナル再活性化によるバレット食道の発癌・進展機序の解明	石村 典久	消化器内科	1,430,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
制御性B細胞の誘導・活性化機構の分子メカニズムの解明と腸管炎症制御への応用	石原 俊治	消化器内科	1,040,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
自然リンパ球を標的とした好酸球性食道炎の病態機序の解明	大嶋 直樹	消化器内科	1,170,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
集約的オミックス解析による難病の原因究明と疾患別遺伝子診断ネットワークの構築	木下 芳一	消化器内科	3,000,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
慢性ウイルス性肝炎の病態把握(重症度・治療介入時期・治療効果判定・予後予測)のための非侵襲的病態診断アルゴリズムの確立	佐藤 秀一	肝臓内科	20,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
消化管異物、特に金属異物回収時において高成功率をもたらすマグネット鉗子の開発	三代 剛	消化器内科	1,999,800	補委 島根県
複合的MRI研究によるアパシーの神経機序解明	小野田 慶一	神経内科	1,040,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
精神的価値が成長する感性イノベーション拠点	山口 修平	神経内科	3,000,000	補委 国立研究開発法人 科学技術振興機構
脳アンチエイジング	山口 修平	神経内科	9,000,000	補委 国立研究開発法人 科学技術振興機構
脳情報を共通で蓄積するクラウド(共通クラウド)と脳情報を大規模に取得する為のフィールド(共通フィールド)の構築	山口 修平	神経内科	1,000,000	補委 国立研究開発法人 科学技術振興機構
小細胞肺癌治療のパラダイムシフトを指向した治療研究	磯部 威	呼吸器・化学療法内科	1,950,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	森田 栄伸	皮膚科	1,200,000	補委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
牛肉アレルギー患者で持続的に高発現される好塩基球CD203cの活性化機序の解明	千貫 祐子	皮膚科	1,040,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
LAMP法による急性感染性発疹症の迅速診断法の確立	新原 寛之	皮膚科	2,340,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アトピー性皮膚炎のバリア機能破綻に関わるタンパク質群の網羅的な同定・相対定量解析	高橋 仁	皮膚科	390,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
漢方薬に由来する抗真菌物質の同定とその作用機序の解明	ダシヤ	皮膚科	500,000	補委 公益信託 皮膚科国際学術交流基金
アトピー性皮膚炎とストレスの関連の検討	劉 麗娟	皮膚科	250,000	補委 公益財団法人 日中医学協会
生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの新規治療法・予防法の開発	森田 栄伸	皮膚科	30,000,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
医薬品・医療機器の実用化促進のための評価技術手法の戦略的開発	森田 栄伸	皮膚科	400,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
重症薬疹関連書類の作成、臨床試料収集と関連解析	森田 栄伸	皮膚科	3,406,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
重症薬疹関連書類の作成、臨床試料収集と関連解析	森田 栄伸	皮膚科	1,250,000	補委 公益財団法人 木原記念横浜生命科学振興財団

(小計29)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新生児マスキングの cohorts 体制, 支援体制, および精度向上に関する研究	山口 清次	小児科	10,600,000	補委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
新しい先天代謝異常症スクリーニング時代に適応した治療ガイドラインの作成および生涯にわたる診療体制の確立に向けた調査研究	山口 清次	小児科	400,000	補委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
乳幼児突然死候群(SIDS)および乳幼児突発性危急事態(ALTE)の病態解明等と死亡数減少のための研究	山口 清次	小児科	400,000	補委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
HSD10病の発症形態と患者数の把握, 診断基準の作成に関する研究	山口 清次	小児科	150,000	補委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
薬剤性カルニチン欠乏症の臨床像と病態に関する研究	小林 弘典	小児科	1,040,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
小児白血病の中樞神経浸潤に対する分子基盤解明と新規治療法開発	福田 誠司	小児科	1,040,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪酸β酸化障害に基づく小児急性脳症の発症機序解明と治療法の開発	山口 清次	小児科	2,080,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
本当に重症型グルタル酸血症2型にベザフィブレートは無効か?	山田 健治	小児科	2,080,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Runx1を標的とした治療抵抗性小児AMLに対する新たな治療戦略	平出 智裕	小児科	1,820,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
性分化疾患の診断を目的としたタンデムマスによる血中ステロイド一斉分析法の確立	虫本 雄一	小児科	1,430,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪酸代謝異常症患者に対するカルニチン投与の実態調査	山口 清次	小児科	1,300,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ベザフィブレートによるミトコンドリア脂肪酸代謝異常症(FAOD)の治療	山口 清次	小児科	260,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
症例登録とプロトコール治療実施	平原 典幸	消化器外科	1,200,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
胆汁耐性ヘリコバクター胆道感染の診断・治療システムの構築と胆道発癌予防法の確立	田島 義証	肝・胆・膵外科	780,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
遺伝的高血圧モデルラットの食塩感受性は腎依存性か: 腎交換移植による検討	今井 健介	心臓血管外科	1,560,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
軟骨前駆細胞を用いた変形性関節症治療法の開発	内尾 祐司	整形外科	1,690,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アデノシン三リン酸代謝を用いた変形性膝関節症の新徐放性注射薬の研究	熊橋 伸之	整形外科	1,040,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
3次元精密骨軟骨加工機器の開発	内尾 祐司	整形外科	2,000,000	補委 公益財団法人 テルモ科学技術振興財団
脳腫瘍幹細胞とニッチにおけるインドールアミンジオキシゲナーゼの阻害効果	宮寄 健史	脳神経外科	650,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
miRNAによる去勢抵抗性前立腺癌における治療抵抗性獲得の解明	有地 直子	泌尿器科	2,990,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
活性化グリアの観点から試みる電気けいれん療法の効果発現メカニズムの解明	橋岡 慎征	精神科神経科	1,820,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
統合失調症発症予防を目指した簡便かつ非侵襲的なスクリーニングシステムの開発	和氣 玲	精神科神経科	1,560,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
治療抵抗性統合失調症におけるグリア-ニューロン回路網異常の解明	宮岡 剛	精神科神経科	5,070,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
自閉症スペクトラム障害に対する抑肝散の有用性の科学的知見の創出に関する研究	宮岡 剛	精神科神経科	4,940,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
GnRHニューロンに対する中枢性制御機構の解明	金崎 春彦	産科婦人科	1,560,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ARID1A遺伝子変異を基盤とした卵巣明細胞腺癌発生機構の解明	中山 健太郎	産科婦人科	1,950,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
子宮平滑筋肉腫における新規分子標的RSF-1の機能解析	石川 雅子	産科婦人科	1,950,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
子宮内膜症幹細胞の探索と分子標的治療に向けた基礎的研究	京 哲	産科婦人科	1,040,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生殖制御ホルモンの中枢性制御機構の解明	折出 亜希	産科婦人科	1,170,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規増幅癌遺伝子ZNF217を標的とした卵巣明細胞腺癌の治療開発のための基礎的研究	片桐 浩	産科婦人科	1,430,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
卵巣漿液性腺癌の卵管起源説に対する実験的検証と発癌分子機構の解析	京 哲	産科婦人科	7,670,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
浜田市における安全, 安心な地域周産期医療体制確立に向けた試み	京 哲	産科婦人科	2,600,000	補委 浜田市
地域における近未来型周産期体制の確立	京 哲	産科婦人科	2,600,000	補委 益田地区広域市町村圏事務組合

(小計33)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ゲノム編集技術を用いたSOX2発現制御機構の解明	飯俣 久	耳鼻咽喉科	1,650,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
スギ花粉症治療米を用いた新たな舌下免疫療法の展開	川内 秀之	耳鼻咽喉科	1,560,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Toll様受容体を介したアレルギー性鼻炎の制御	青井 典明	耳鼻咽喉科	1,690,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
黄斑機能に対する黄斑色素の臨床及び基礎的検討	小山 泰良	眼科	1,950,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規脂質酸化マーカーを用いた光照射由来一重項酸素の生体内動態とルテイン効果の検証	大平 明弘	眼科	1,040,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
緑内障臨床検体ライブラリーを用いた全身及び局所酸化ストレス因子の網羅的解析	谷戸 正樹	眼科	1,560,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
過酸化水素による内因性ペルオキシダーゼ分解を介する放射線効果増強の組織学的検討	猪俣 泰典	放射線治療科	780,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄レベルでのκオピオイドの鎮痒と鎮痛の役割を解明する	今町 憲貴	麻酔科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
プロテオーム解析による自己完結型組織再生材の修復因子の解明	関根 浄治	歯科口腔外科	1,430,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
骨伝導能を有する新規生体吸収性足場とヒトiPS細胞を用いた顎骨再生療法の開発	管野 貴浩	歯科口腔外科	1,820,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
漢方:気の異常における診察法と治療のエビデンス構築	長井 篤	臨床検査科	5,000,000	補委 公益財団法人 上原記念生命科学財団
乳癌におけるNAC-1タンパク発現と、臨床病理学的因子との相関	丸山 理留敬	病理診断科	650,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
患者の視点に基づく日本版プライマリーケア評価ツールの開発	木島 庸貴	総合診療科	2,340,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
液状検体における免疫染色とパパンニコウ染色を用いた二重染色法の確立	荒木 剛	検査部	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
多項目自動血球分析装置による造血前駆細胞(HPC)モードの臨床的有用性の検討	兒玉 るみ	検査部	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
大脳白質病変及び認知機能低下に関わる遺伝子多型の解析	馬庭 恭平	検査部	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
先天性骨系統疾患に対する高純度間葉系幹細胞を用いた骨再生の技術開発	竹谷 健	輸血部	1,500,000	補委 公益財団法人 母子健康協会
動物モデルを用いた臍帯由来間葉系幹細胞による新規再生・免疫抑制療法の開発	竹谷 健	輸血部	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
高純度間葉系幹細胞による細胞治療基盤技術開発	竹谷 健	輸血部	2,500,000	補委 日本医療研究開発機構 医療研究開発推進事業費補助金
遺伝子修復間葉系幹細胞を用いた低フォスファターゼ症の治療技術開発	小田 泰昭	輸血部	3,250,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
患者iPS細胞を用いた低フォスファターゼ症の治療技術開発	小田 泰昭	輸血部	1,560,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
高純度間葉系幹細胞を用いた骨系統疾患の治療技術開発	小田 泰昭	輸血部	2,000,000	補委 公益財団法人 テルモ科学技術振興財団
低フォスファターゼ症含む骨形成不全症に対する臍帯由来間葉系細胞(MSC)の非臨床試験	竹谷 健	輸血部	2,400,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
NK細胞リンパ腫に対するSMILE療法の開発研究	鈴木 律朗	腫瘍センター	1,000,000	補委 公益財団法人 小林がん学術振興会
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の新規難治性病型に対する臨床試験の実施および治療安全性の検討と診療実態調査	鈴宮 淳司	腫瘍センター	1,300,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
がん罹患・診療・死亡情報の収集・解析・活用について	鈴宮 淳司	腫瘍センター	9,659,876	補委 島根県
ロバストパラメータ設計における技術方法論の開発と大規模コンピュータ実験への応用	河村 敏彦	医療情報部	1,170,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
診療クリニカルパス自動生成のためのアクティブマインニングプロセスに関する研究	津本 周作	医療情報部	5,590,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
時系列データマイニングによる臨床DBからの知識獲得	津本 周作	医療情報部	9,750,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
新規分化誘導剤と癌分子標的薬による固形癌細胞の増殖抑制とその分子基盤解析	粕壁 隆	地域医療教育学講座	1,560,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
感染防止対策加算算定病院の感染対策の整備状況および地域連携に関する実態調査	西村 信弘	薬剤部	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
チロシンキナーゼ阻害薬のPK-PD決定因子の同定	直良 浩司	薬剤部	1,040,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
初代培養ラット肝細胞による薬剤性肝障害時のD-ドーパクロムトートメラーゼの関与	中村 健志	薬剤部	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

(小計33)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	
				委	

217,695,676

合計95

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kanazawa I	Department of Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	An Open-label Longitudinal Study on the Efficacy of Switching from Insulin Glargine or Detemir to Degludec in Type 2 Diabetes Mellitus.	Intern Med. 2015;54(13):1591-8.
2	Tanaka K	Internal Medicine 1, Faculty of Medicine, Shimane University	Xanthiuria type 1 with a novel mutation of xanthine dehydrogenase.	Am J Med Sci .2015 Aug;350(2):155-156.
3	Takeno A	Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Activation of AMP-activated protein kinase protects against homocysteine-induced apoptosis of osteocytic MLO-Y4 cells by regulating the expressions of NADPH oxidase 1 (Nox1) and Nox2.	Bone. 2015 Aug;77:135-41.
4	Tanaka K	Department of Internal Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Reduction in Endogenous Insulin Secretion is a Risk Factor of Sarcopenia in Men with Type 2 Diabetes Mellitus.	Calcif Tissue Int. 2015 Oct;97(4):385-90.
5	Tanaka K	Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Effects of high glucose and advanced glycation end products on the expressions of sclerostin and RANKL as well as apoptosis in osteocyte-like MLO-Y4-A2 cells.	Biochem Biophys Res Commun. 2015 May 29;461(2):193-9.
6	Kiyohara N	Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Discordance between Prevalent Vertebral Fracture and Vertebral Strength Estimated by the Finite Element Method Based on Quantitative Computed Tomography in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus.	PLoS One. 2015 Dec 7;10(12):e0144496.
7	Notsu M	Department of Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Serum dipeptidyl peptidase-4 is associated with multiple vertebral fractures in type 2 diabetes mellitus.	Clin Endocrinol(Oxf). 2016 Mar;84(3):332-7. doi:
8	Tanaka K	Department of Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Elevated Serum Pentosidine and Decreased Serum IGF-I Levels are Associated with Loss of Muscle Mass in Postmenopausal Women with Type 2 Diabetes Mellitus.	Exp Clin Endocrinol Diabetes. 2016 Mar;124(3):163-6.
9	Tanaka K	Department of Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Vitamin D-mediated hypercalcemia in multicentric Castleman's disease.	J Bone Miner Metab. 2015 Nov 23. [Epub ahead of print]
10	Kanazawa I	Department of Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Osteocalcin as a hormone regulating glucose metabolism.	World J Diabetes. 2015 Dec 25;6(18):1345-54.
11	Yokomoto-Umakoshi M	Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Activation of AMP-activated protein kinase decreases receptor activator of NF- κ B ligand expression and increases sclerostin expression by inhibiting the mevalonate pathway in osteocytic MLO-Y4 cells.	Biochem Biophys Res Commun. 2016 Jan 22;469(4):791-6.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
12	Takeno A	Internal Medicine 1, Shimane University Faculty of Medicine	Successful Improvement of Metabolic Disorders, Including Osteopenia, by a Dopamine Agonist in a Male Patient with Macro-Prolactinoma.	Am J Case Rep. 2016 Mar 13;17:160-4.
13	Adachi K	Department of Oncology/Hematology, School of Medicine, Shimane University	Tamoxifen enhances the differentiation-inducing and growth-inhibitory effects of all-trans retinoic acid in acute promyelocytic leukemia cells.	Int J Oncol. 2016 Mar;48(3):1095-102.
14	Miyake T	Department of Oncology/Hematology, School of Medicine, Shimane University	Combined treatment with tamoxifen and a fusicoccin derivative (ISIR-042) to overcome resistance to therapy and to enhance the antitumor activity of 5-fluorouracil and gemcitabine in pancreatic cancer cells.	Int J Oncol. 2015 Jul;47(1):315-24.
15	Takahashi T	Department of Oncology/Hematology, Shimane University Hospital	Synergistic combination therapy with cotylenin A and vincristine in multiple myeloma models.	Int J Oncol. 2015 Apr;46(4):1801-9.
16	Miyoshi Y	Department of Nursing, Shimane University Hospital	Validity of the chemotherapy-induced peripheral neuropathy self-check sheet.	Intern Med. 2015;54(7):737-42.
17	Takahashi T	Department of Oncology/Hematology, Shimane University Hospital	Spontaneous Regression of Intravascular Large B-Cell Lymphoma and Apoptosis of Lymphoma Cells: A Case Report.	J Clin Exp Hematop. 2015;55(3):151-6.
18	Ishimura N	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	No increase in gastric acid secretion in healthy Japanese over the past two decades.	J Gastroenterol. 2015 Aug;50(8):844-52.
19	Kusunoki R	Department of Internal Medicine II, Shimane University Faculty of Medicine	Role of milk fat globule-epidermal growth factor 8 in colonic inflammation and carcinogenesis.	J Gastroenterol. 2015 Aug;50(8):862-75.
20	Okimoto E	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Prevalence of gastroesophageal reflux disease in children, adults, and elderly in the same community.	J Gastroenterol Hepatol. 2015 Jul;30(7):1140-6.
21	Oka A	Department of Emergency and Critical Care Medicine, Faculty of Medicine, Shimane University	Crowned Dens Syndrome: Report of Three Cases and a Review of the Literature.	J Emerg Med. 2015 Jul;49(1):e9-e13.
22	Kinoshita Y	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Systematic review: Eosinophilic esophagitis in Asian countries.	World J Gastroenterol. 2015 Jul 21;21(27):8433-40.
23	Kinoshita Y	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Recent Progress in the Research of Eosinophilic Esophagitis and Gastroenteritis.	Digestion. 2016;93(1):7-12.
24	Furuta K	Second Department of Internal Medicine, Shimane University School of Medicine	Effect of Timing of Proton Pump Inhibitor Administration on Acid Suppression.	Digestion. 2016;93(2):111-20.
25	Tamagawa Y	Department of Internal Medicine II, Shimane University Faculty of Medicine	Bile acids induce Delta-like 1 expression via Cdx2-dependent pathway in the development of Barrett's esophagus.	Lab Invest. 2016 Mar;96(3):325-37.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
26	Shimura S	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Small Intestinal Bacterial Overgrowth in Patients with Refractory Functional Gastrointestinal Disorders.	J Neurogastroenterol Motil. 2016 Jan 31;22(1):60-8.
27	Mikami H	Second Department of Internal Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Effects of Metoclopramide on Esophageal Motor Activity and Esophagogastric Junction Compliance in Healthy Volunteers.	J Neurogastroenterol Motil. 2016 Jan 31;22(1):112-7.
28	Mishima Y	Department of Internal Medicine II, Shimane University Faculty of Medicine	Decreased Frequency of Intestinal Regulatory CD5+ B Cells in Colonic Inflammation.	PLoS One. 2016 Jan 4;11(1):e0146191.
29	Fukuba N	Department of Internal Medicine II, Shimane University School of Medicine	Primary Pancreatic Malignant Lymphoma Diagnosed from Endoscopic Ultrasound-guided Fine-needle Aspiration Findings.	Intern Med. 2016;55(1):31-5.
30	Shibagaki K	Department of Gastroenterology, Faculty of Medicine, Shimane University	Dabigatran-induced asymptomatic esophageal mucosal injury.	Gastrointest Endosc. 2016 Feb;83(2):472-3; discussion 474.
31	Okada M	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Circumferential distribution and location of Mallory-Weiss tears: recent trends.	Endosc Int Open. 2015 Oct;3(5):E418-24.
32	Ishimura N	Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine	Effects of acotiamide on esophageal motor function and gastroesophageal reflux in healthy volunteers.	BMC Gastroenterol. 2015 Sep 11;15:117.
33	Aimi M	Second Department of Internal Medicine, Shimane University School of Medicine	Isolated Superior Mesenteric Artery Dissection with Small Intestine Ischemia.	Case Rep Gastroenterol. 2015 Oct 21;9(3):341-6.
34	Mitaki S	Department of Neurology, Shimane University School of Medicine	C-reactive protein levels are associated with cerebral small vessel-related lesions.	Acta Neurol Scand. 2015 May 14. doi: 10.1111/ane.12440.
35	Yan H	Department of Neurology, Faculty of Medicine, Shimane University	Gray matter volume abnormalities in the apathetic elderly	Frontiers in Human Neuroscience, 9: 318, doi:10.3389/fnhum.2015.00318, 2015
36	Matsuura A	Department of Neurology, Faculty of Medicine, Shimane University	Magnetic stimulation and movement-related cortical activity for acute stroke with hemiparesis.	Eur J Neurol. 2015 Jul 15. doi: 10.1111/ene.12776.
37	Onoda K	Department of Neurology, Shimane University	Dissociative contributions of the anterior cingulate cortex to apathy and depression: Topological evidence from resting-state functional MRI.	Neuropsychologia. 2015 Jul 31;77:10-18.
38	Hiroaki Oguro	Department of Neurology, Shimane University School of Medicine	Acute Mesenteric Ischemia after Recurrent Embolic Stroke	Int J Gastroenterol Disord Ther 2015, 2: 117
39	Hiroaki Oguro	Department of Neurology, Shimane University School of Medicine	Impairment of memory function as a marker of progression from Behcet's disease	Journal of Neurology and Neuroscience 2016, 3: 27 (1-4)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
40	Hiroaki Oguro	Department of Neurology, Shimane University School of Medicine	Pupillary response to auditory stimuli in depressive state	J Neurol Res. 2016; 6(1): 8-11
41	Kondo M	Department of Rheumatology, Shimane University Faculty of Medicine	Usefulness of MRI and US in Successful Discontinuation of Etanercept in RA Patients: A Report of Two RA Cases	J Clin Case Rep 2015, 5:6
42	Kondo M	Department of Rheumatology, Shimane University Faculty of Medicine	Concurrent Occurrence of Hemophagocytic Syndrome and Myelofibrosis in a Case of SLE	J Clin Case Rep 2015, 5:7
43	Okada T	Division of Cardiology, Shimane University Faculty of Medicine	Pneumococcal endocarditis complicating meningitis and arthritis in a previously healthy woman: A case report	J Cardiol Cases 11 (2015) 96-99
44	Ito S	Division of Cardiology, Shimane University Faculty of Medicine	A case of myocardial calcification with the latent risk of congestive heart failure.	Intern Med 2015;54:1627-1631
45	Takahashi N	Fourth Department of Internal Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Awareness of salt restriction is not reflected in the actual salt intake in Japanese hypertensive patients.	Clin Exp Hypertens. 2015;37(5):388-92.
46	Tanabe K	Division of Cardiology, Shimane University Faculty of Medicine	Echocardiographic assessment of prosthetic valves.	J Echocardiogr. 2015 Dec;13(4):126-33.
47	Ito S	Division of Cardiology, Shimane University Faculty of Medicine	A case of Acute Myocardial Infarction due to Left Atrial Myxoma.	Intern Med 2016;55(1):49-54.
48	Kusatake K	Department of Dermatology, Shimane University Faculty of Medicine	Usefulness of sentinel lymph node biopsy for the detection of metastasis in the early stage of extramammary Paget's disease.	Eur J Dermatol. 2015 Apr.25(2):156-61.
49	Murata S	Department of Dermatology, Shimane University Faculty of Medicine	Case of mucous membrane pemphigoid with immunoglobulin G antibodies to the beta 3 subunit of laminin-332 showing clinically Stevens-Johnson syndrome-like generalized blistering mucocutaneous lesions.	J Dermatol. 2015 Nov;42(11):1126-8.
50	Komatsu-Fujii T	Department of Dermatology, Shimane University Faculty of Medicine	Usefulness of rapid measurement of serum thymus and activation-regulated chemokine level in diagnosing drug-induced hypersensitivity syndrome.	Allergol Int. 2015 Oct;64(4):388-9.
51	Hein KZ	Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Shimane University	Disulphide-reduced psoriasin is a human apoptosis-inducing broad-spectrum fungicide.	Proc Natl Acad Sci U S A. 2015 Oct 20;112(42):13039-44.
52	Chinuki Y	Department of Dermatology, Shimane University Faculty of Medicine	Haemaphysalis longicornis tick bites are a possible cause of red meat allergy in Japan.	Allergy. 2016 Mar;71(3):421-5.
53	Taketani T	Department of Pediatrics, Shimane University Faculty of Medicine	Neurological Symptoms of Hypophosphatasia.	Subcell Biochem. 2015;76:309-22.
54	Mine J	Department of Pediatrics, Shimane University Faculty of Medicine	Clinical and genetic investigation of 17 Japanese patients with hyperekplexia.	Dev Med Child Neurol. 2015 Apr;57(4):372-7.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
55	Takahashi T	Department of Pediatrics, Shimane University Faculty of Medicine	Metabolic disease in 10 patients with sudden unexpected death in infancy or acute life-threatening events.	Pediatr Int. 2015 Jun;57(3):348-53.
56	Yamamoto K	Department of Pediatrics, Shimane University School of Medicine	Acute Myositis Associated with Concurrent Infection of Rotavirus and Norovirus in a 2-Year-Old Girl.	Pediatr Rep. 2015 Sep 28;7(3):5873.
57	Yamada K	Department of Pediatrics, Shimane University Faculty of Medicine	Clinical, biochemical and molecular investigation of adult-onset glutaric acidemia type II: Characteristics in comparison with pediatric cases.	Brain Dev. 2016 Mar;38(3):293-301.
58	Yamada K	Department of Pediatrics, Shimane University Faculty of Medicine	Elevation of pivaloylcarnitine by sivelestat sodium in two children.	Mol Genet Metab. 2015 Nov;116(3):192-4.
59	Hirade T	Department of Pediatrics, Shimane University Faculty of Medicine	Internal tandem duplication of FLT3 deregulates proliferation and differentiation and confers resistance to the FLT3 inhibitor AC220 by Up-regulating RUNX1 expression in hematopoietic cells	Int J Hematol. 2016 Jan;103(1):95-106
60	Bo R	Department of Pediatrics, Shimane University Faculty of Medicine	A fetus with mitochondrial trifunctional protein deficiency: Elevation of 3-OH-acylcarnitines in amniotic fluid functionally assured the genetic diagnosis.	Mol Genet Metab Rep. 2015 Dec 5;6:1-4.
61	Hirahara N	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Significance of prophylactic intra-abdominal drain placement after laparoscopic distal gastrectomy for gastric cancer.	World J Surg Oncol. 2015 May 12;13:181.
62	Matsubara T	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Early gastric cancer associated with gastric sarcoidosis.	Int Surg. 2015 May;100(5):949-53.
63	Hirahara N	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Impact of inflammation-based prognostic score on survival after curative thoracoscopic esophagectomy for esophageal cancer.	Eur J Surg Oncol. 2015 Oct;41(10):1308-15.
64	Tetsu Yamamoto	Department of Digestive and General Surgery, Faculty of Medicine, Shimane University	A Multicenter Cohort Study for XELOX(Capecitabine, Leucovorin plus Oxaliplatin) Therapy as First-Line Treatment in Elderly Patients with Unresectable Colorectal Cancer	Journal of Cancer Therapy, 2015, 6, 153-162
65	Hari Y	Department of Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Bcl-xL inhibition by molecular-targeting drugs sensitizes human pancreatic cancer cells to TRAIL.	Oncotarget. 2015 Dec 8;6(39):41902-15.
66	Hirahara N	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Prognostic Importance of Controlling Nutritional Status in Patients Undergoing Curative Thoracoscopic Esophagectomy for Esophageal Cancer.	Am J Ther. 2016 Feb 5. [Epub ahead of print]
67	Kawabata Y	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Superior mesenteric artery-first approach in radical antegrade modular pancreateosplenectomy for borderline resectable pancreatic cancer: a technique to obtain negative tangential margins.	J Am Coll Surg. 2015 May;220(5):e49-54.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
68	Kawabata Y	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Prognostic Value of Excision Repair Cross-Complementing Gene 1, Dihydropyrimidine Dehydrogenase, and Human Equilibrative Nucleotide Transporter 1 Expression and Their Implications for Adjuvant Treatment in Patients With Ampullary Carcinoma.	Pancreas. 2015 Aug;44(6):937-44.
69	Nishi T	Department of Digestive and General Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Intraductal papillary mucinous carcinoma of the pancreas associated with pancreas divisum: a case report and review of the literature.	BMC Gastroenterol. 2015 Jul 8;15:78.
70	Oda T	Division of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Department of Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Proteomic analysis in cardiovascular research	Surg Today. 2016 Mar;46(3):285-96. DOI 10.1007/s00595-015-1169-4
71	Kisa T	Department of Rehabilitation Medicine of Shimane University	History, application, procedures, and effects of intermittent oral catheterization (IOC)	Jpn J Compr Rehabil Sci Vol 6, 2015
72	Kumahashi N	Department of Orthopaedics, Shimane University	Type II collagen C2C epitope in human synovial fluid and serum after knee injury--associations with molecular and structural markers of injury.	Osteoarthritis Cartilage. 2015 Sep;23(9):1506-12.
73	Mitsui Y	Department of Urology, Shimane University Faculty of Medicine	Inactivation of bone morphogenetic protein 2 may predict clinical outcome and poor overall survival for renal cell carcinoma through epigenetic pathways.	Oncotarget. 2015 Apr 20;6(11):9577-91.
74	Mitsui Y	Department of Urology, Shimane University School of Medicine	Tissue Chromogranin A Expression during Prostate Cancer Progression: Prediction of Chemosensitivity.	Urol J. 2015 Jul 1;12(3):2165-72.
75	Mitsui Y	Department of Urology, Shimane University Faculty of Medicine	CYP1B1 promotes tumorigenesis via altered expression of CDC20 and DAPK1 genes in renal cell carcinoma.	BMC Cancer. 2015 Dec 1;15(1):942.
76	Miyaoka T	Department of Psychiatry, Shimane University School of Medicine	Efficacy and safety of yokukansan in treatment-resistant schizophrenia: a randomized, multicenter, double-blind, placebo-controlled trial.	Evid Based Complement Alternat Med. 2015;2015:201592.
77	Hayashida Maiko	Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Shimane University	Adult-Onset Adrenoleukodystrophy with Frontal Lobe Symptoms: A Case Report.	Open Journal of Psychiatry, 2015, 5, 180-185
78	Hashioka S	Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Shimane University	Can inhibition of microglial activation cure schizophrenia?	Schizophr Res. 2015 Oct;168(1-2):583-4.
79	Wake R	Department of Psychiatry, Shimane University Faculty of Medicine	Regional cerebral blood flow in late-onset schizophrenia: a SPECT study using 99mTc-ECD.	Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci. 2016 Feb;266(1):3-12.
80	Miyaoka T	Department of Psychiatry, Shimane University School of Medicine	Analysis of oxidative stress expressed by urinary level of biopyrrins and 8-hydroxydeoxyguanosine in patients with chronic schizophrenia.	Psychiatry Clin Neurosci. 2015 Nov;69(11):693-8.
81	Wake R	Department of Psychiatry, Shimane University Faculty of Medicine	Erratum to: Regional cerebral blood flow in late-onset schizophrenia: a SPECT study using 99mTc-ECD.	Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci. 2016 Feb;266(1):13.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
82	Furuya M	Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Shimane University	Ramelteon as adjunctive therapy for delirium referred to a consultation-liaison psychiatry service: a retrospective analysis.	Int J Geriatr Psychiatry. 2015 Sep;30(9):994-5.
83	Miura S	Department of Psychiatry, Shimane University Faculty of Medicine	Novel Therapy With Ramelteon for Hypoactive Delirium: A Case Report.	J Clin Psychopharmacol. 2015 Oct;35(5):616-8
84	Yamashita S	Department of Psychiatry, Shimane University School of Medicine	Treatment of Paroxysmal Perceptual Alteration in Catatonic Schizophrenia by Switching to Aripiprazole from Risperidone. A case Report.	Clin Schizophr Relat Psychoses. 2016 Spring;10(1):37-40.
85	Inoue K	Department of Public Health, Faculty of Medicine, Shimane University	Importance of measures to prevent suicides related to the Great East Japan Earthquake among women.	Psychiatry Clin Neurosci. 2015 Sep;69(9):596.
86	Inoue K	Department of Public Health, Faculty of Medicine, Shimane University	A Long-term Study of the Association between the Relative Poverty Rate and Suicide Rate in Japan.	J Forensic Sci. 2016 Jan;61 Suppl 1:S140-3.
87	Wake R	Department of Psychiatry, Shimane University School of Medicine	Effects of Yokukansan, a Japanese Kampo Medicine for Symptoms Associated Autism Spectrum Disorder.	CNS Neurol Disord Drug Targets. 2016;15(5):551-63.
88	Kanasaki H	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Role of thyrotropin-releasing hormone in prolactin-producing cell models.	Neuropeptides. 2015 Aug 5. pii: S0143-4179(15)00078-5.
89	Kyo S	Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, Shimane University	Endometrial Cancer Stem Cell as a Potential Therapeutic Target.	Semin Reprod Med. 2015 Aug 18.
90	Oride A	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Regulation of kisspeptin and gonadotropin-releasing hormone expression in rat placenta: study using primary cultures of rat placental cells.	Reprod Biol Endocrinol. 2015 Aug 13;13(1):90.
91	Nakamura K	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine.	Efficacy of multiple microwave endometrial ablation technique for menorrhagia resulting from adenomyosis.	J Obstet Gynaecol Res. 2015 Jul 30.
92	Kyo S	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University Faculty of Medicine	Nerve-sparing abdominal radical trachelectomy: a novel concept to preserve uterine branches of pelvic nerves.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2015 Jul 10;193:5-9.
93	Kanasaki H	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University Faculty of Medicine	Trichostatin A reduces GnRH mRNA expression with a concomitant increase in retinaldehyde dehydrogenase in GnRH-producing neurons.	Mol Cell Endocrinol. 2015 Sep 15;413:113-9.
94	Sato E	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	A case with life-threatening uterine bleeding due to postmenopausal uterine arteriovenous malformation.	BMC Womens Health. 2015;15:10.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
95	Sukhbaatar U	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Stimulation of δ subunit-containing GABAA receptor by DSI increases GnRH receptor expression but reduces GnRH mRNA expression in GnRH-producing GT1-7 cells.	Endocrine. 2015 May;49(1):222-30.
96	Katagiri H	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Loss of autophagy-related protein Beclin 1 may define poor prognosis in ovarian clear cell carcinomas	Int J Oncol. 2015 Dec;47(6):2037-44.
97	Nakayama K	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	CCNE1 amplification is associated with aggressive potential in endometrioid endometrial carcinomas.	Int J Oncol. 2016 Feb;48(2):506-16.
98	Mijiddorj T	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	Retinoic acid and retinaldehyde dehydrogenase are not involved in the specific induction of the follicle-stimulating hormone β subunit by trichostatin A, a selective inhibitor of histone deacetylase.	Gen Comp Endocrinol. 2015 Nov 30.
99	Hara T	Department of Obstetrics and Gynecology, Shimane University School of Medicine	A Case of Idiopathic Acute Pancreatitis in the First Trimester of Pregnancy.	Case Rep Obstet Gynecol. 2015;2015:469527.
100	Tanito M	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine	Correlation between Systemic Oxidative Stress and Intraocular Pressure Level.	PLoS One. 2015 Jul 17;10(7):e0133582.
101	Ohira A	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine	Topical dexamethasone γ -cyclodextrin nanoparticle eye drops increase visual acuity and decrease macular thickness in diabetic macular oedema.	Acta Ophthalmol. 2015 Jul 23
102	Tanito M	Shimane University Faculty of Medicine	Lack of association of LOXL1 gene variants in Japanese patients with central retinal vein occlusion without clinically detectable pseudoexfoliation material deposits.	Acta Ophthalmol. 2015 May;93(3):e214-7.
103	Tanito M	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine,	Possible bidirectional flow of aqueous fluid after Baerveldt glaucoma implant surgery.	Acta Ophthalmol. 2015 May;93(3):e237-8.
104	Sano I	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine	Assessment of Filtration Bleb and Endplate Positioning Using Magnetic Resonance Imaging in Eyes Implanted with Long-Tube Glaucoma Drainage Devices.	PLoS One. 2015 Dec 7;10(12):e0144595.
105	Sugihara K	Department of Ophthalmology, Shimane University Faculty of Medicine	Case series of pseudoexfoliation material on intra-ocular lenses.	Acta Ophthalmol. 2015 Nov;93(7):e596-7.
106	Takai Y	Department of Ophthalmology, Shimane University	Temporal inverted internal limiting membrane flap technique for a amacular hole patient unable to maintain postoperative prone positioning.	Retin Cases Brief Rep. 2015 Dec 13. [Epub ahead of print]
107	Yoshida R	Department of Radiology, Faculty of Medicine, Shimane University	Information of prostate biopsy positive core: does it affect MR detection of prostate cancer on using 3T-MRI?	Jpn J Radiol. 2015 May;33(5):246-52.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
108	Yoshida R	Department of Radiology, Faculty of Medicine, Shimane University	Focal pulmonary interstitial opacities adjacent to the thoracic spine osteophytes among the cases with right-sided aortic arch.	Springerplus. 2015 Aug 13;4:415.
109	Maruyama M	Department of Radiology, Shimane University Faculty of Medicine	Initial Experience with Balloon-Occluded Trans-catheter Arterial Chemoembolization (B-TACE) for Hepatocellular Carcinoma.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2016 Mar;39(3):359-66.
110	Tamaki Y	Department of Radiation Oncology, Shimane University School of Medicine	Short treatment time and excellent treatment outcome in accelerated hyperfractionated radiotherapy for T1 glottic cancer.	Nagoya J Med Sci. 2015 Nov;77(4):585-94.
111	Sutou I	Palliative Care Center, Shimane Medical University Hospital	Fentanyl tolerance in the treatment of cancer pain: a case of successful opioid switching from fentanyl to oxycodone at a reduced equivalent dose.	J Pain Palliat Care Pharmacother. 2015 Jun;29(2):161-5.
112	Yamamoto H	Department of Anesthesiology, Shimane University Faculty of Medicine	Monitored anesthesia care based on ultrasound guided subcostal transversus abdominis plane block for continuous ambulatory peritoneal dialysis catheter surgery	J Anesth. 2016 Feb;30(1):156-60.
113	Sakakihara M	From the Department of Anesthesiology, Shimane University Faculty of Medicine	Effects of Intrathecal κ -Opioid Receptor Agonist on Morphine-Induced Itch and Antinociception in Mice.	Reg Anesth Pain Med. 2016 Jan-Feb;41(1):69-74.
114	Tatsumi H	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Clinical Features and Treatment Modes of Mandibular Fracture at the Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Hospital, Japan.	PloS One. 2015 Sep 3;10(9):e0136278.
115	Kanno T	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	A modified pectoralis major myocutaneous flap technique with improved vascular supply and an extended rotation arc for oral defects: A case report	Oncol Lett. 2015 Nov;10(5):2739-2742.
116	Takashi Koike	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	A case of naso-orbital-ethmoid fracture following unexpected airbag deployment	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 27 (2015) 522-524
117	Sekine J	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Shimane University Faculty of Medicine	Nucleus Accumbens-Associated Protein 1 Expression Has Potential as a Marker for Distinguishing Oral Epithelial Dysplasia and Squamous Cell Carcinoma.	PLoS One. 2015 Jul 14;10(7):e0131752.
118	Nariai Y	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Shimane University	Histopathological Features of Secondary Squamous Cell Carcinoma Around a Dental Implant in the Mandible After Chemoradiotherapy: A Case Report With a Clinicopathological Review.	J Oral Maxillofac Surg. 2015 Nov 10. pii: S0278-2391(15)01440-8.
119	Kanno T	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Shimane University	A Safe Modification of Endoscopically Assisted Intraoral Mandibular Condylectomy using A Piezoelectric Device.	Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery, 27(1): 25-27, 2015.
120	Takahiro Kanno	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Shimane University	Applicability of an unsintered hydroxyapatite particles/poly-L-lactide composite sheet with tack fixation for orbital fracture reconstruction.	Journal of Hard Tissue Biology, 25(3): 329-334, 2016.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
121	Sheikh AM	Department of Laboratory Medicine, Shimane University School of Medicine	Lysophosphatidylcholine increases the neurotoxicity of Alzheimer's amyloid β 1-42 peptide: role of oligomer formation.	Neuroscience. 2015 Apr 30;292:159-69.
122	Yano S	Department of Laboratory Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Interrelationship between glucose metabolism and undercarboxylated osteocalcin: a cross-sectional study in a community-dwelling population.	Asia Pac J Clin Nutr. 2015 Sep ;24(3):489-95.
123	Yano S	Department of Laboratory Medicine, Shimane University Faculty of Medicine	Relationship between Blood Myostatin Levels and Kidney Function: Shimane CoHRE Study.	PLoS One. 2015 Oct 26;10(10):e0141035.
124	Matsushita T	Departments of *Pathology , Shimane University School of Medicine	The number and distribution of eosinophils in the adult human gastrointestinal tract: a study and comparison of racial and environmental factors.	Am J Surg Pathol. 2015 Apr;39(4):521-7.
125	Ishikawa N	Department of organ pathology, Shimane University Faculty of Medicine	Diffuse and multifocal nephrogenic adenoma with Familial Mediterranean Fever: a case report with molecular study.	Diagn Pathol. 2015 Jul 16;10:104.
126	Taketani T	Division of Blood Transfusion, Shimane University Hospital, Department of Pediatrics, Shimane University Faculty of Medicine	Ex Vivo Expanded Allogeneic Mesenchymal Stem Cells with Bone Marrow Transplantation Improved Osteogenesis in Infants with Severe Hypophosphatasia.	Cell Transplant. 2015;24(10):1931-43.
127	Masayoshi Nishina	Department of Emergency Medicine, Faculty of Medicine, Shimane University	A fatal case of orally ingested lidocaine	日本蘇生学会誌 34(2):109-112,2015.8
128	Takeshita H	Department of Legal Medicine Shimane University Faculty of Medicine,	Distribution of the rs3136794 polymorphism of the DNA polymerase beta involved in the base excision repair pathway, in world-wide population	Indian Journal of Clinical Biochemistry
129	Takeshita H	Department of Legal Medicine, Shimane, University Faculty of Medicine	Worldwide Distribution of Four SNPs in X-Ray and Repair and Cross-Complementing Group 1 (XRCC1).	Clin Transl Sci. 2015 Aug;8(4):347-50.
130	Hirose M	Department of Community-based Health Policy and Quality Management, Shimane University Faculty of Medicine	Additional Medical Costs Due to Hospital-Acquired Falls.	J Patient Saf. 2015 Jun 12.
131	Ishihara N	Department of Pharmacy, Shimane University Hospital	Evaluation of a pharmacokinetic/pharmacodynamic approach using software to optimize the carbapenem antibiotic regimen.	Int J Clin Pharmacol Ther. 2015 Jun;53(6):422-9.
132	Nojima Y	Department of Medical Education and Research, Faculty of Medicine, Shimane University	Job and life satisfaction and preference of future practice locations of physicians on remote islands in Japan	Hum Resour Health. 2015 May 26;13:39.
133	Wada M	Department of Medical Education and Research, Shimane University Faculty of Medicine,	Effect of Serum Cholesterol on Insulin Secretory Capacity: Shimane CoHRE Study.	PLoS One. 2016 Feb 16;11(2):e0149452.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名

計133

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 委員会の責務、構成、審査・報告事項、審査方法、審査・報告の受付、会議の招集と議長、成立要件、審査手順、議事要旨の作成、審査結果の通知、審査後の対応、他の研究機関からの審査依頼、記録の保管 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 目的、対象及び基準、委員会の設置、委員会所掌事項、審査・結果に基づく要請等、守秘義務 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 (4回シリーズ) 研究計画書の書き方、介入研究のモニタリング、データ管理と統計解析、研究デザイン (研究倫理の基本的事項はCITI Japan e-learningを利用)	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を理念とした研修指導医数の豊富な臨床研修施設であり、卒前卒後のシームレスな医学教育を提供し、地域病院間ネットワークを有する基幹病院として新専門医制度に対応した後期研修プログラムを提供可能である。

プログラム作成には若手医師のキャリア形成支援を担当するしまね地域医療支援センター、各診療科、県内医療機関等が連携して、基本領域の専門医やサブスペシャリティーの専門医、あるいは同時に医学博士の学位取得を目標とした後期研修プログラムを作成している。また、新専門医制度に対応した体制整備を行った。

2 研修の実績

研修医の人数	83人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
杉本 利嗣	内分泌代謝内科	科長	38年	
鈴宮 淳司	腫瘍・血液内科	科長	32年	
木下 芳一	消化器内科	科長	36年	
佐藤 秀一	肝臓内科	科長	23年	
山口 修平	神経内科	科長	36年	
村川 洋子	膠原病内科	科長	22年	
礮部 威	呼吸器・化学療法内科	科長	30年	
伊藤 孝史	腎臓内科	科長	24年	
田邊 一明	循環器内科	科長	30年	
森田 栄伸	皮膚科	科長	30年	
竹谷 健	小児科	科長	20年	
平原 典幸	消化器外科	科長	25年	
田島 義証	肝・胆・膵外科	科長	33年	
久守 孝司	小児外科	科長	29年	
板倉 正幸	乳腺・内分泌外科	科長	32年	
織田 禎二	心臓血管外科	科長	34年	
岸本 晃司	呼吸器外科	科長	27年	
内尾 祐司	整形外科	科長	30年	
秋山 恭彦	脳神経外科	科長	26年	
椎名 浩昭	泌尿器科	科長	30年	
堀口 淳	精神科神経科	科長	36年	
京 哲	産科	科長	30年	
京 哲	婦人科	科長	30年	
川内 秀之	耳鼻咽喉科	科長	33年	
大平 明弘	眼科	科長	38年	
北垣 一	放射線科	科長	32年	
猪俣 泰典	放射線治療科	科長	31年	
齊藤 洋司	麻酔科	科長	32年	
仁科 雅良	救急科	科長	35年	
関根 浄治	歯科口腔外科	科長	27年	

長井 篤	臨床検査科	科長	27年	
丸山 理留敬	病理診断科	科長	35年	
馬庭 壯吉	リハビリテーション科	科長	14年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 井川 幹夫
管理担当者氏名	検査部長 長井 篤、放射線部長 北垣 一、手術部長 佐倉 伸一、 薬剤部長 直良 浩司、看護部長 神田 真理子、 MEセンター長 藤本 欣史、医学部総務課長 嘉本 龍二、 医学部医療サービス課長 林 元之、医学部会計課長 松浦 政裕、 総務部総務課長 福間 栄子

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二号に掲げる事項	病院日誌	医学部医療サービス課 手術部 薬剤部 検査部 放射線部 看護部	カルテ等の病歴資料は、入院・外来別に1患者1ファイル方式で管理し、エックス線写真は放射線部で患者毎に管理している。なお、平成18年9月の電子カルテ導入後、電子化されたものは病院情報管理システムのデータベース上で、患者IDをキーにして管理されている。 ○診療録を病院外へ持ち出す際の取扱い ・紙診療録は、医学部外に帯出しないこととして、閲覧者への遵守事項としている。 ・電子的に保存された診療録及び診療記録に係る情報の利用は、本院が定める利用要項に基づいた申請により、了承されたものとしており、原則学外へ持ち出すことを禁じている。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
		病院の管理及び運営に関する諸記録		
高度の医療の提供の実績	医学部医療サービス課			
高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部総務課及び 医学部会計課			
高度の医療の研修の実績	医学部総務課			
閲覧実績	医学部医療サービス課			
紹介患者に対する医療提供の実績	医学部医療サービス課			
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医学部医療サービス課 及び薬剤部			
規則第十一條	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医学部医療サービス課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医学部医療サービス課	
	医療に係る安全管理のための職		医学部医療サービス課	

	員研修の実施状況	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医学部医療サービス課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	医学部医療サービス課
	第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための委員会の開催状況	医学部医療サービス課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医学部医療サービス課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医学部医療サービス課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医学部医療サービス課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医学部医療サービス課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医学部医療サービス課及びMEセンター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医学部医療サービス課及びMEセンター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医学部医療サービス課及びMEセンター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医学部医療サービス課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医学部医療サービス課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医学部医療サービス課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医学部医療サービス課
		医療安全管理部門の設置状況	医学部医療サービス課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医学部医療サービス課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医学部医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務部総務課
		職員研修の実施状況	医学部医療サービス課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	医学部事務部長 後藤 郁則	
閲覧担当者氏名	医学部医療サービス課長 林 元之	
閲覧の求めに応じる場所	附属病院 2階カルテ閲覧室	
閲覧の手続の概要 紙診療録の閲覧を希望する者は、診療録閲覧申込書に所要事項を記入し病歴担当者へ申し出た上で、カルテ閲覧室において閲覧する。閲覧後は、病歴担当者に返却する。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： はじめに 「医療安全文化を維持向上させるために」</p> <ol style="list-style-type: none">1 安全管理に関する基本方針 島根大学医学部附属病院における安全管理に関する基本方針2 医療事故防止の基本3 医療事故防止に関する基本用語4 インフォームド・コンセント5 安全管理体制に関する組織6 医療事故を未然に防止するための体制7 医療事故等が発生した場合（緊急時）の体制8 医療従事者と患者との間の情報の共有9 患者からの相談10 職員研修11 医療安全の推進のために必要なその他の事柄	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 1 2 回</p> <ol style="list-style-type: none">1 医療安全管理委員会2 リスクマネジャー会議 <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1 島根大学医学部附属病院医療安全管理委員会規則<ol style="list-style-type: none">1) 医療事故等の防止対策に関する事2) 医療事故等の把握、分析、対処改善及び評価に関する事3) 医療事故に係る患者及びその家族への対応に関する事4) 安全管理のための職員の教育・研修に関する事5) 医薬品の安全使用に関する事6) 医療機器の安全使用に関する事7) その他、医療安全管理に関する事2 島根大学医学部附属病院リスクマネジャーに関する要項<ol style="list-style-type: none">1) 安全確保のための点検の実施に関する事2) 当該診療科等の構成員に対し、安全確保のための指導の実施に関する事3) リスクマネジャー会議への参画に関する事4) その他、医療事故防止に関する事	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 3 回
<p>・ 研修の主な内容： (平成 2 7 年度)</p>	

- 1 「みんなで考える大学病院医療事故」
- 2 「医療事故調査制度における原因分析、再発防止と関連する諸制度について」
- 3 「MRI検査の安全管理」
- 4 「放射線治療計画装置の品質マネジメント」
- 5 「安全な保育器の使用方法について」
- 6 「各社人工呼吸器のモードの違いについて」
「人工呼吸器の機器管理について」
- 7 「電氣的除細動について」
「DCとAEDの違い」（こういう時はどちらを使用する）
- 8 「補助循環の安全使用に関して」
- 9 「血液浄化装置管理とインシデント予防への取り組み」
「救命率向上のために」
- 10 「放射線治療におけるリスクマネジメント」

(平成28年度)

- 1 「新採用者医療安全研修会」
- 2 「医療事故の経験から伝えたいこと」
- 3 「放射線治療計画装置における安全使用に向けた取り組み」

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1 院内ラウンドの強化
 - 2 リスクまねじめんと通信に毎月の事例の内容を盛り込んで発行
 - 3 インシデントレポート入力方法に対する研修会
 - 4 分析ツールを用いた事例の分析と評価の件数を増加させる
 - 5 インシデントレポート内容の要約について各部署への情報提供

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的考え方2. 院内感染対策のための委員会等の組織3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針6. 患者等に対する当該方針の閲覧に関する基本方針7. 院内における感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 感染制御部の運営、業務の企画に関すること2. 感染の予防に関すること3. 予防対策実施の指導に関すること4. 感染予防の教育に関すること5. 院内感染の原因調査、経過の追跡、整理及び分析等に関すること6. その他感染対策に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 0 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 全職員対象研修会 第 1 回「結核について」 第 2 回「ワクチンによる肺炎の予防を推進しましょう！♪ニューモバックスとプレベナー♪」 第 3 回「病院スタッフが知っておくべき感染対策の 3 つのポイント」・ 新規採用者（中途採用者）「医療安全・感染対策」研修会 （新規採用者研修 1 回、中途採用者研修 2 回）・ 新規採用医科歯科研修医オリエンテーション「院内感染予防対策について」・ 看護部新入職員オリエンテーション「院内感染予防対策について」・ 看護師対象研修会「尿道留置カテーテル管理」・ ME センター対象研修会「感染対策の基本」・ 外部委託業者（清掃・廃棄物）の感染対策のための研修会「手指衛生について」・ 看護部キャリアアップ研修会 - 感染管理コース - （全 6 回） 「感染対策の基本」、「職業感染管理」、「医療器材の洗浄・消毒・滅菌」、「細菌検査と検体の大切なお話」、「やさしい抗菌薬講座」、「ファシリティマネジメントとデバイスサーベイランス」・ 材料部との合同研修会「針刺し、切創対策鋼製小物の取扱いについて」・ 薬剤部実習生対象研修会「感染対策の基本」・ 看護助手対象感染対策研修会「滅菌機材の取り扱いについて」 「感染対策は自分を守る！」	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>・ 各部署をラウンドし状況を確認、情報収集のうえ指導する。</p>	

- ・週1回開催する週ミーティング時に、感染情報 Web を展開して感染症状況、抗菌薬使用状況を分析し、それに基づき現場にて指導する。
- ・必要時に関係者を招集し会議を開催、発生の原因を分析・協議し、改善策の立案及び実施の指導ならびに他部署への周知を図る。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	① 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 47 回 (平成27年度)
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：別紙5、6 (院内全体の研修会)<ol style="list-style-type: none">1. 医員研修会：処方時の留意点、副作用報告について2. 医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために」3. 新人看護職静脈注射研修：薬剤の基礎知識と管理4. フェンタニルレスキュー製剤の適正使用に関する研修会 (薬剤部内の研修会) 製品説明会／病棟・部署研修会等：年 41 回 (平成 27 年度)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 ① 有・無・ 業務の主な内容：別紙7
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ① 有・無・ その他の改善のための方策の主な内容：別紙8

1)院内全体の研修会

月/日	研修内容
4/2	看護部採用者入職時研修:新任看護師に知っておいてほしい基礎的な薬剤管理 (75名)
4/3	医員研修会:処方時の留意点、副作用報告について (23名)
5/18	医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために(第1回)」 (54名)
5/19	医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために(第2回)」 (41名)
12/8	新人看護職静脈注射研修:薬剤の基礎知識と管理 (37名)
12/15	新人看護職静脈注射研修:薬剤の基礎知識と管理 (38名)

2)薬剤部内の研修会

月/日	研修内容
4/7	製品説明会:「ジーラスタ皮下注3.6mg」、「アグリリンカプセル0.5mg」 (37名)
4/13	製品説明会:「ジャカビ錠5mg」、「タブコム配合点眼液」 (34名)
4/23	製品説明会:「タペンタ錠25mg、50mg」、「プレアミン-P注射液」 (31名)
5/13	製品説明会:「グラナテック点眼液0.4%5mL」、「コンビビル配合錠」 病棟・部署研修会 (27名)
5/20	製品説明会:「ベルソムラ錠15mg、20mg」、「バニヘップカプセル150mg」 (35名)
5/27	製品説明会:「スタレボ配合錠L50、L100」、「クレナフィン爪外用液10%」 病棟・部署研修会 (36名)
6/10	製品説明会:「イノベロン錠100mg」、「タイサブリエ点滴静注300mg」 病棟・部署研修会 (35名)
6/24	製品説明会:「アーゼラ点滴静注液100mg、1000mg」、「ルティナス錠100mg」 病棟・部署研修会 (30名)
7/1	製品説明会:「コセンテイクス皮下注150mgシリンジ」、「ベピオゲル2.5%」 (29名)
7/8	製品説明会:「ベリナートP静注用500」、「コレアジン錠12.5mg」 病棟・部署研修会 (31名)
7/22	製品説明会:「レルベア100エリプタ、200エリプタ」、「アノーロエリプタ7吸入用」 (29名)
8/5	製品説明会:「ボシュリフ錠100mg」、「ウリアデック錠20mg」 病棟・部署研修会 (33名)
8/19	製品説明会:「タケキャブ錠20mg」、「ホメピゾール点滴静注1.5g「タケダ」」 病棟・部署研修会 (34名)
8/31	SANOPI Webセミナー for Pharmacist:「脳卒中からみて、薬剤師に知って欲しい抗血小板薬と抗凝固薬の知識」 (28名)
9/2	製品説明会:「ジャディアンス錠10mg、25mg」、「メキシチール点滴静注125mg」 病棟・部署研修会 (27名)
9/10	製品説明会:「オールドレブ点滴静注用150mg」、「トリーメク配合錠」 (29名)
9/16	製品説明会:「エビリファイ持続性水懸筋注用400mgシリンジ」、「ポマリスタカプセル2mg、3mg、4mg」 病棟・部署研修会 (28名)
9/18	製品説明会:「ベリプラストPコンビセット3mL」、「ソバルディ錠400mg」、「ハーボニー配合錠」 (22名)
10/1	製品説明会:「大黃甘草湯エキス顆粒」、「竜胆瀉肝湯エキス顆粒」 (15名)
10/7	製品説明会:「ラジカット点滴静注バッグ30mg」、「エクリラ400 μ gジェヌエア30吸入用」 病棟・部署研修会 (29名)
10/15	製品説明会:「ソリス点滴静注300mg」、「メナクトラ筋注」 (22名)
10/21	製品説明会:「ザファテック錠100mg」、「ピカネイト輸液(500mL袋)」 (30名)
10/28	製品説明会:「レンビマカプセル4mg、10mg」、「ロゼックスゲル0.75%」 (18名)
11/4	製品説明会:「ワントラム錠100mg」、「アネメロ点滴静注液500mg」 病棟・部署研修会 (25名)
11/12	製品説明会:「サイラムザ点滴静注液100mg」、「イムノマックス- γ 注100」 (19名)
11/18	製品説明会:「プリジスタナイーブ錠800mg」、「ビデュリオン皮下注用2mgペン」 病棟・部署研修会 (22名)
11/26	製品説明会:「イリボー錠2.5 μ g」、「ノベルジン錠25mg」 (17名)
12/2	製品説明会:「ゼルボラフ錠240mg」、「ノイアート静注用500単位、1500単位」 病棟・部署研修会 (23名)

12/16	製品説明会:「プラケニル錠200mg」、「ランタスXR注シロスター」 病棟・部署研修会 (25名)
12/24	製品説明会:「ブイフェンドドライシロップ2800mg」、「レスピア静注・経口液60mg」 (15名)
1/7	製品説明会:「アボネックス筋注30 μ gペン」、「インスリン グラルギンBS注カート「リリー」」 (17名)
1/13	製品説明会:「ストレンジック皮下注12mg/0.3mL」、「トルシテイ皮下注0.75mgアテオス」 病棟・部署研修会 (29名)
1/21	製品説明会:「エクラープラスター20 μ g/cm ² 」、「ザイヤフレックス注射用」 (24名)
1/27	製品説明会:「デュアック配合ゲル」、「ヤーボイ点滴静注液50mg」 (27名)
2/4	製品説明会:「オフエブカプセル100mg、150mg」、「パッチテストパネル(S)」 (15名)
2/10	製品説明会:「ムルプレタ錠3mg」、「ファリーダックカプセル10mg、15mg」 病棟・部署研修会 (31名)
2/18	製品説明会:「エラプレーズ点滴静注液6mg」、「ヴィキラックス配合錠」 (14名)
2/24	製品説明会:「スピオルトレスピマツト28吸入」、「ミダフレッサ静注0.1%」 病棟・部署研修会 (25名)
3/9	製品説明会:「リュープリンPRO注射用キット22.5mg」、「コパキソン皮下注20mgシリンジ」 病棟・部署研修会 (27名)
3/17	製品説明会:「デビケイ錠50mg」、「ヨンドリス点滴静注用0.25mg、1mg」 病棟・部署研修会 (24名)
3/23	製品説明会:「ミティキュアダニ舌下錠3,300JAU、10,000JAU」、「ロコアテープ」 病棟・部署研修会 (20名)

※研修会参加者名、内容および時間などを別途記録している。

1) 院内全体の研修会

月/日	研修内容
4/4	看護部採用者入職時研修: 新任看護師に知っておいてほしい基礎的な薬剤管理 (76名)
4/5	医員研修会: 処方時の留意点、副作用報告について (30名)
5/10	フェンタニルレスキュー製剤の適正使用に関する研修会 (アブストラル舌下錠、イーフェンバッカル錠を処方する医師の必須研修) (31名)
5/24	医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために(第1回)」(51名)
5/27	医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために(第2回)」(47名)
6/15	フェンタニルレスキュー製剤の適正使用に関する研修会 (アブストラル舌下錠、イーフェンバッカル錠を処方する医師の必須研修) (35名)
7/19	フェンタニルレスキュー製剤の適正使用に関する研修会 (アブストラル舌下錠、イーフェンバッカル錠を処方する医師の必須研修) (18名)

2) 薬剤部内の研修会

月/日	研修内容
4/7	製品説明会: 「グラニセロン内服ゼリー2mg「ケミファ」」、「ライゾデグ配合注 フレックスタッチ」(25名)
4/14	製品説明会: 「デュファストン錠5mg」、「ピートルチュアブル錠250mg、500mg」 病棟・部署研修会 (31名)
4/21	製品説明会: 「マリゼブ錠25mg」、「PPSB-HT静注用500単位「ニチャク」」(27名)
5/12	製品説明会: 「レバサ皮下注140mgシリンジ、140mgペン」、「ゼビアクスローション2%」 病棟・部署研修会 (30名)
5/19	製品説明会: 「スクエアキッズ皮下注シリンジ」、「モーラスパップXR120mg」(31名)
5/26	製品説明会: 「ストラテラ内用液0.4%」、「サインバルタカプセル30mg」 病棟・部署研修会 (31名)
6/2	製品説明会: 「カプレルサ錠100mg」、「タグリソ錠40mg、80mg」(28名)
6/16	製品説明会: 「フェブリック錠」、「ボナロン経口ゼリー35mg」 病棟・部署研修会 (27名)
6/23	製品説明会: 「エボルトラ点滴静注20mg」、「サムチレール内用懸濁液15%」 病棟・部署研修会 (30名)
7/14	製品説明会: 「ジカディアカプセル150mg」、「タルグレチンカプセル75mg」(27名)
7/21	製品説明会: 「ジオクチルソジウムスルホサキシネート耳科用液5%「CEO」」、「ウトロゲスタン腔用カプセル200mg」(31名)
7/28	製品説明会: 「メファキン「ヒサミツ」錠275」、「サイラムザ点滴静注液100mg」(31名)
8/4	製品説明会: 「サラジェン顆粒0.5%」、「アシテアダニ舌下錠100単位、300単位(IR)」 病棟・部署研修会 (28名)
8/25	製品説明会: 「オプスミット錠10mg」、「フィコンパ錠2mg、4mg」 病棟・部署研修会 (32名)
8/31	Meiji Seikaファルマ Webカンファレンス: 「抗菌薬TDMガイドライン改訂版一行間を読む」(20名)
9/1	製品説明会: 「ザガーロカプセル0.5mg」、「ゴナールエフ皮下注ペン300、900」 病棟・部署研修会 (32名)
9/8	製品説明会: 「タフィンラーカプセル50mg、75mg」、「メキニスト錠0.5mg、2mg」(30名)

※研修会参加者名、内容および時間などを別途記録している。

医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に基づく業務の実施状況

(業務の主な内容)

1. 医薬品の採用
 - ・ 医薬品の新規採用に際しては、用法・用量、禁忌、相互作用、副作用、保管・管理上の注意、使用上の注意に関する問題点を抽出し、問題点がある場合には対策を検討して当該医薬品を適正かつ安全に使用できるよう適切に対処する。
 - ・ 未承認医薬品の新規採用に際しては、担当部門の承認が得られていることを必要とする。
2. 医薬品の購入
 - ・ 納品書と納入医薬品を照合し、商品名、剤形、規格単位、メーカー、包装単位、数量、製造番号、有効（使用）期限を確認する。
 - ・ 納入医薬品の破損の有無及び外観異常を検査する。
 - ・ 麻薬、覚せい剤原料、向精神薬（第1種、第2種）、毒薬、劇薬、特定生物由来製品などの規制医薬品の納入時には、関連する法規に基づき対応する。
3. 調剤室における医薬品の管理
 - ・ 医薬品は関連する法規に基づく配置、管理を行うとともに、外観類似薬は配置場所を離す、同一銘柄が複数存在する場合は規格の色やデザインを変えて規格が複数あることが判るようにする、類似名称薬品には、「類似薬品名注意」等の表示を行って注意喚起するなどの対応をとる。
 - ・ 温度、遮光等の保管条件のある医薬品は、それぞれの保管条件を確認し、適切な場所に保管する。
4. 病棟・各部門への医薬品の供給
 - ・ 注射薬は原則、専用トレーに患者単位・1日単位の薬品を1手技ごとにセットし払い出す。
 - ・ 配置品目・定数は、注射薬の使用量を基に年1回以上見直しを行う。
 - ・ 特に安全管理が必要な医薬品（薬剤部ホームページ掲載：施錠管理の薬剤）のうち注射薬は、交付時に「所定の場所へ保管」と記載された専用の袋に入れて、直接手渡しあるいは施錠可能なカート又はカートに付属の施錠可能なボックスに入れて交付する。
 - ・ カリウム製剤、抗がん薬及び筋弛緩薬は、一般病棟・外来診療科には原則として配置しない。

5. 外来患者への医薬品の使用

- ・ 要注意薬（ハイリスク薬等）は、薬歴、病名や臨床検査値などを確認する。
- ・ 処方内容に疑義がある場合は、医師へ問い合わせを行い、必ず疑義が解決してから調剤を行う。
- ・ 疑義照会の記録として、処方箋に照会内容を赤字で記入する。
- ・ 照会内容、変更内容、照会者を記載した疑義照会記録を保管する。
- ・ 疑義照会などで得られた調剤及び服薬指導に必要な患者情報を病院情報管理システムに登録する。
- ・ 処方内容に変更が生じる場合は、医師が処方を変更する。
- ・ 糖尿病用薬、自動車運転等の禁止等の記載がある医薬品等、薬学的指導が必要な薬剤を服用している患者には、用法・用量、副作用等に関して説明を行う。

6. 病棟における医薬品の管理

- ・ 医薬品は関連する法規に基づく配置、管理を行う。
- ・ 規制医薬品及び特に安全管理が必要な医薬品については、必要最小限の数量を定数配置する。
- ・ 原則として年 1 回以上、病棟医長、病棟担当薬剤師、看護師長による配置薬品の見直しを行う。
- ・ 危険薬を新たに配置する場合は、病棟担当薬剤師が「医薬品名ラベル」とともに「危険薬シール」を配置箇所に貼付し、識別性を高める。
- ・ 救急カートは医療安全の観点から、原則として一般病棟においては品目、数量及びカート内の配置を統一する。

7. 入院患者への医薬品の使用

- ・ 「持参薬確認業務マニュアル」に従い、薬剤師が原則すべての入院患者の持参薬について確認を行う。
- ・ 処方監査、調剤、患者説明等については「5. 外来患者への医薬品の使用」に準じる。
- ・ 払い出し済みの内服薬、外用薬等の用法・用量の変更及び中止の指示は、医師が指示をオーダー入力し、必要に応じて内容等を看護師に連絡する。
- ・ 払い出し済みの注射薬を変更又は中止する場合は、注射オーダーの変更又は中止の入力を行う。不要となった注射薬は返品伝票と共に薬剤部へ返納する。必要に応じて医師は指示オーダーを変更し、内容等を看護師に連絡する。
- ・ 医師は、疑義照会により修正が必要となった場合は、病院情報管理システム上で処方修正を行う。必要に応じて医師は指示オーダーを変更し、内容等を看護師に連絡する。
- ・ 使用する上で特に注意が必要な医薬品は、調製時の注意、希釈、安定性などの情報を出

力し、注射薬に添付して情報提供を行う。

8. 医薬品情報の収集・管理・提供

- ・ 医薬品等安全性関連情報、添付文書、インタビューフォーム、製品情報概要、外観等の取り間違い防止に関する情報等を入手する。
- ・ 未承認等に該当する医薬品の使用に関する情報を医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等から収集する。
- ・ 入手した医薬品情報は、いつでも利用できるように整理して保管する。
- ・ 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の報告対象に該当すると考えられる副作用を発見した場合には、医薬品安全性情報報告書に記入し、薬剤部長に送付する。厚生労働省に送付した副作用情報は薬剤部で一括管理するとともに、薬事専門部会で評価し、対応を検討する。
- ・ 医薬品・医療機器等安全性情報、DSU (Drug Safety Update : 医薬品安全対策情報)、緊急安全性情報、安全性速報、医薬品の新規採用等に関する情報、その他、厚生労働省からの通知等については、医療サービス課等より院内各部門へ配布する。
- ・ 緊急安全性情報、安全性速報、医薬品・医療機器等安全性情報ならびに医薬品の新規採用等に関する情報は、院内情報ウェブ (薬剤部ホームページ) に掲載し、参照可能とする。
- ・ 緊急安全性情報、安全性速報発出時ならびに添付文書情報の重要な改訂など緊急性を有する安全性情報を入手した場合は、医薬品安全管理責任者 (薬剤部長) と対応を協議する。必要に応じ、院内各部門へ通知するとともに、処方医あるいは診療科ごとの患者リストを作成し、副作用の発現状況等の確認を依頼する。入院中の患者については診療科担当薬剤師による副作用等の発現状況の確認も行う。確認終了後はリストに押印し、医薬品情報管理室に提出する。
- ・ 病院情報管理システムにより、医薬品毎の使用患者数を診療科別に集計することにより、各医薬品の処方状況を把握する。
- ・ DSU における「最重要」、「重要」に該当する薬剤等、使用状況の定期的な確認が必要な医薬品を医薬品安全管理責任者 (薬剤部長) と協議し決定する。
- ・ DSU における記載事項について遵守状況を確認し、必要に応じ、院内各部門へ通知するとともに、通知後の遵守状況を再度確認する。

9. 手術・麻酔部門

- ・ 手術部で使用する医薬品は、配置薬カート及び手術部医薬品庫に定数配置とし、使用した定数配置医薬品を薬剤部から補充する。
- ・ 向精神薬、筋弛緩薬等の配置場所への補充は、手術部担当薬剤師が行う。
- ・ 向精神薬、筋弛緩薬の数量チェックは、手術部担当薬剤師が行う。

- ・ 麻薬管理は、当日の麻酔科スーパーバイザーが行う。手術部担当薬剤師が麻薬の管理状況を平日業務日に点検し、使用数を補充する。休日が連続する場合は、休日後最初の平日に一括して行う。
10. 集中治療部門
 - ・ 集中治療部で緊急時などに使用する医薬品は、配置薬カート等に定数配置とし、使用した定数配置医薬品を薬剤部から補充する。
 - ・ 薬剤部からメッセンジャーにより搬送された医薬品の配置場所への補充は、平日は、常駐薬剤師が行う。休日及び常駐薬剤師が不在の場合は看護師が行う。
 - ・ 向精神薬、筋弛緩薬の数量チェックは、常駐薬剤師が行う。
 11. 輸血・血液管理部門
 12. 血液透析部門
 13. 画像診断部門、臨床検査部門
 14. 歯科領域
 - ・ 11～14 については「部署別安全管理マニュアル」部署別編ならびに各部門ホームページを参照する。
 15. 他施設との連携
 - ・ 必要に応じて他の医療機関へ、退院時処方（現に使用する医薬品の名称、剤形、規格、用法・用量）の内容、一包化等の調剤上の工夫、服薬期間の管理が必要な医薬品の投与開始日、アレルギー歴、副作用歴、禁忌医薬品等をお薬手帳や必要な情報が記載された簡潔な文書（シール等）に記載して提供する。
 - ・ 院外処方箋に対する疑義照会及び回答は、薬剤部を介してファックスを用いて行う。
 16. 事故発生時の対応
 - ・ 緊急時にはドクターハリーコール（TEL 199）などにより対応する。
 - ・ 事故発生を想定した対応手順の作成と定期的な見直しを行い職員へ周知する。
 - ・ 「医療安全管理・危機管理対応ポケットマニュアル」を職員に配布し、定期的に見直す。
 - ・ インシデント事例の収集・分析とそれに基づく事故防止対策の策定と実施を行う。
 - ・ 事故発生時には、「医療事故防止対策マニュアル」、「医療安全管理・危機管理対応ポケットマニュアル」に従って対応する。
 17. 教育・研修
 - ・ 医療安全、医薬品・医療機器に関する事故防止対策等の教育・研修を実施する。
 - ・ 新任医師及び看護師に対する医薬品の安全使用に関する研修会を実施する。

医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集
その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

(その他の改善のための方策の主な内容)

1. 未承認、適応外、禁忌（以下、未承認等）に該当する医薬品の使用

○ 未承認医薬品の新規採用

- ・ 未承認医薬品の新規採用に際しては、担当部門の承認が得られていることを必要とする。

○ 未承認等の医薬品の使用を行うための手続き

- ・ 医師は、未承認等に該当する医薬品の使用を行う場合、別に規定する手順に従って、担当部門への申請、使用および報告を行う。

○ 未承認等の医薬品の使用状況の把握

- ・ 上記手続きにより使用が認められた未承認医薬品については、処方オーダリングシステムにおいて患者限定・医師限定・診療科限定等の処方制限を設け、処方の際に薬剤部で患者登録を行うことにより、使用状況を把握する。
- ・ 調剤および処方の確認を行う際に、薬剤師は未承認等の医薬品の使用を可能な限り把握する。未承認等の医薬品の新規患者への処方を認めた場合、使用についての院内承認の有無、処方理由およびその根拠を確認、必要に応じて代替薬等を提案する。それらの内容をカルテに記載するとともに、薬剤師介入事例データベースに登録することにより、使用状況を把握する。
- ・ 医薬品安全管理責任者が指名した医薬品情報管理室の担当薬剤師ならびに医療安全管理部専従薬剤師は、上記により把握した未承認等の医薬品の使用状況を医薬品安全管理責任者に定期的に報告し、必要に応じて医師等に対する指導や未承認等の医薬品の使用に関する情報の院内への通知を行う。

2. 医薬品情報の収集・管理

○ 医薬品等安全性関連情報、添付文書、インタビューフォーム等の収集

- ・ 医薬品の新規採用時に、添付文書、インタビューフォーム、製品情報概要等の安全性に関する情報及び外観等の取り間違い防止に関する情報を入手する。
- ・ 緊急安全性情報、安全性速報、医薬品・医療機器等安全性情報が発せられたときには、PMDA メディナビ、製薬会社等より速やかに情報収集を行い、状況を把握する。

- ・ 添付文書改訂については、DSU（Drug Safety Update：医薬品安全対策情報）等により改訂情報を把握し、改訂時には新添付文書及び改訂内容を解説した使用上の注意の改訂のお知らせを当該医薬品の製造販売業者より入手する。
 - ・ 未承認等に該当する医薬品の使用に関する情報を医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等から収集する。
- 医薬品情報の保管
- ・ 入手した医薬品情報は、いつでも利用できるように整理して保管する。
- 医薬品情報のメンテナンス
- ・ 医薬品集の改訂を3年毎に行い、間の年は追補版を発行する。
 - ・ 採用医薬品リスト（院内情報ウェブ（薬剤部ホームページ））の改訂を薬事専門部会毎に行う。
 - ・ 医薬品情報変更時には、薬剤部に保管する添付文書、インタビューフォーム等の更新を行う。
 - ・ 処方オーダーシステムで提供する医薬品情報のメンテナンスを月1回行う。
 - ・ 相互作用データ（併用禁忌薬等）のメンテナンスを行う。
- 副作用情報の収集
- ・ 院内医療関係者は、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の報告対象に該当すると考えられる副作用を発見した場合には、医薬品安全性情報報告書に記入し、薬剤部長に送付する。薬剤部長のもとで、加えるべき事項があれば追記し、厚生労働省に送付するとともに、薬剤部で一括管理する。報告された副作用情報は薬事専門部会で評価し、対応を検討する。
- 医薬品回収情報
- ・ 製薬企業の自主回収及び行政からの回収命令が出された際には、速やかに以下の情報を入手する。
（資料作成年月日、種別、クラス分類、一般名及び販売名、対象ロット、数量、出荷時期、製造業者名等名称、回収理由、危惧される具体的な健康被害、回収開始年月日、効能・効果又は用途等、その他出荷先の把握状況、担当者名及び連絡先等）
 - ・ 必要に応じ各部門、各職種へ情報提供を行う。
- 病棟薬剤師との情報共有
- ・ 定期的（原則2週に1回）に医薬品情報管理室及び臨床薬剤・試験研究室が主体となり薬剤部内カンファレンスを開催し、病棟薬剤業務を行うために必要な情報（新規採用医薬品の医薬品情報、使用上の注意等）を病棟薬剤師と共有する。

3. 院内における医薬品の使用状況の定期的な確認

○ 医薬品処方状況の把握

- ・ 病院情報管理システムにより、医薬品毎の使用患者数を診療科別に集計することにより、各医薬品の処方状況を把握する。また、必要に応じて、品目毎の処方患者、医師、処方量、処方日数などの情報を病院情報管理システムよりダウンロードすることで、より詳細な処方状況を把握する。

○ 医薬品の使用状況の定期的な確認

- ・ 毎月、DSUにおける「最重要」、「重要」に該当する薬剤について、医薬品安全管理責任者(薬剤部長)と協議し、使用状況を確認する薬剤を決定する。
- ・ DSU 発出 3 ヶ月後 (4 月発出では 7 月) に、使用状況の確認が必要と判断された薬剤について過去 3 ヶ月間の使用状況を上記「医薬品処方状況の把握」に従って確認する。
- ・ 薬剤部長との協議において調査期間の延長が必要と判断されれば、さらに遡って確認する。
- ・ 把握した使用状況に基づき、DSU における記載事項について遵守状況を確認する。

4. 医薬品情報の周知及び周知状況の確認

○ 医薬品情報の提供

- ・ 医薬品・医療機器等安全性情報を総務課総務係より院内各部門へ配布する。
 - ・ DSU を医療サービス課より院内各部門に配布する。
 - ・ 緊急安全性情報、安全性速報を医療サービス課より院内各部門に配布する。
 - ・ 医薬品の新規採用等に関する情報について、医療サービス課より院内各部門に配布する。
 - ・ その他、PMDA メディナビ等により入手した厚生労働省からの通知などについて、内容に応じて医療サービス課より院内各部門に配布する。
 - ・ 緊急安全性情報、安全性速報、医薬品・医療機器等安全性情報ならびに医薬品の新規採用等に関する情報は、院内情報ウェブ(薬剤部ホームページ)に掲載し、参照可能とする。
 - ・ 全採用医薬品の添付文書情報(抜粋)を処方オーダーシステムで提供する。
 - ・ 新規採用医薬品について、各診療科、各病棟、中央・特殊診療施設及び保険薬局に医薬品情報、使用開始日、使用条件等の情報を文書で提供するとともに院内情報ウェブ(薬剤部ホームページ)へ掲載する。
- #### ○ 緊急安全性情報、安全性速報発出時ならびに添付文書情報の重要な改訂時の対応

- ・ 上記「医薬品処方状況の把握」に従って、病院情報管理システムよりオーダー情報のダウンロードを行い、当該医薬品処方患者の過去3ヶ月間の使用状況を確認する。
 - ・ 収集した情報にて医薬品安全管理責任者（薬剤部長）と対応を協議する。
 - ・ 院内通知が必要であれば通知する診療科を検討し、院内通知を行う。処方医ごとの患者リスト（処方患者が多い場合は診療科ごとのリスト）を作成し、副作用の発現状況等の確認を依頼し、押印を得る。
 - ・ 入院中の当該患者については上記の対応に加え、診療科ごとのリストをもとに診療科担当薬剤師にて診療科への情報提供ならびに副作用等の発現状況の確認を行う。確認終了後、担当薬剤師はリストに押印し、医薬品情報管理室に提出する。
 - ・ 院内通知発出作業記録に一連の作業内容に係る書類等を保存する。
- 定期的な確認結果を踏まえた医薬品情報の周知及び周知状況の確認
- ・ 周知方法は緊急安全性情報、安全性速報に準じて行う。
 - ・ 「最重要」、「重要」にある内容が遵守されている場合、院内通知は不要とし、院内通知発出作業記録に「適当に使用されていた」旨を明記する。
 - ・ 「最重要」、「重要」にある内容が遵守されていない場合、院内通知を行う。
 - ・ 通知後の遵守状況についてはさらに3ヶ月後に確認を行い、必要に応じ再通知を行う。
 - ・ 院内通知発出記録に一連の作業内容に係る書類等を保存する。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1 安全な人工呼吸器の使用について 予定2 保育器の基礎 (Q & A 方式) 予定3 安全な人工心肺操作とは 予定4 除細動器とは (院内の A E D の場所確認を含む) 予定5 安全な血液浄化について 予定6 放射線治療計画装置の品質マネジメント7 外部放射線治療装置の安全管理	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る計画の策定 (①・無)・ 保守点検の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1 始業点検, 終業点検2 外部委託によるオーバーホール, 院内でのオーバーホール3 外部委託による定期保守・緊急保守 (故障・修理)	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無)・ その他の改善のための方策の主な内容： (情報収集の方法)<ol style="list-style-type: none">1 平成 19 年 3 月 30 日医政指発第 0330001 号第 4. 3 に基づき, 製造販売業者等から不具合が生じた機器に関する情報を収集している。2 臨床工学技士の研修会及び講習会参加により種々情報を収集している。3 島根県出雲保健所から, 人工呼吸器の医療安全対策に係る情報を収集している。4 インターネットによる医療事故情報にて情報を収集している。	

(情報の周知方法)

- 1 上記により収集した情報を医療機器安全管理責任者から病院長に報告をすると共に、該当設置部署、会計課及びMEセンターに文書及び口頭にて周知している。
- 2 医療機器の安全使用のための研修会にて情報の周知を行っている。
- 3 医療機器管理システムによる情報発信（予定）
- 4 放射線機器に関する情報は部内メール、もしくは回覧にて周知している。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

①医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況	
②専任の院内感染対策を行う者の配置状況	①(有) (2名) ・無
③医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況	
・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況	
・担当者の指名の有無 (有・無)	
④医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)	
・規程の主な内容：	
⑤診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・活動の主な内容：	

⑥医療安全管理部門の設置状況

○有・無

- ・所属職員：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（8）名
- うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（3）名
- うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- ・活動の主な内容：
 - 一 医療安全対策の推進のための指導・管理。
 - 二 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
 - 三 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
 - 四 インフォームド・コンセントに関する確認及び指導など。
 - 五 事故等の原因究明が適切に実施されていること、その他の対応状況の確認及びその確認結果に基づく必要な指導を行うこと。
 - 六 医療安全に係る連絡調整に関すること。
 - 七 医薬品の安全使用に係る連絡調整に関すること。
 - 八 医療機器の安全使用に係る連絡調整に関すること。
 - 九 安全管理に関する教育・研修・及び安全管理に関する意識の向上の状況確認に関すること。
 - 十 医療事故調査制度に係る連絡調整に関すること。
 - 十一 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の事務に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

専従医師については公募中であり、専従薬剤師は平成 29 年 4 月配置予定である。専従看護師 2 名が「専任の医療に係る安全管理を行う者」として配置され業務を行っている。

⑦高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
- ・規程の主な内容：
 - ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
 - ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
- ・規程の主な内容：
 - ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
 - ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑨監査委員会の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 回 ・ 活動の主な内容： ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法： 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- （注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

⑩入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 件
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容

⑪他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ）・無）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ）・無）
- ・技術的助言の実施状況

⑫当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
窓口の名称：医療相談室（患者相談部門） 個室の相談室 4 室，相談時間 8:30～17:15
対応する職種：専任リスクマネージャー，MSW，医師，看護師，事務職員

⑬医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

⑮管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

(様式第 8)

島大医総第 310-2 号
平成 28 年 11 月 9 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人島根大学
学長 服部 泰

島根大学医学部附属病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過について

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号口及び第 7 号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 提出した年次計画の項目

1 紹介率・逆紹介率 2 標榜する診療科 3 専門の医師の配置 4 論文発表

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 昨年度および今年度の実績

昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置)	今年度の実績及び承認要件を満たしていない 場合の理由
平成27年度中に「救急科」を標榜する予定である。	平成27年12月1日より「救急科」を標榜した。

(注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第 8 として報告した事項を記載すること。

2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

3 今後の具体的措置

--

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。

(様式第 8)

島大医サ第 34 号
平成 28 年 9 月 7 日

厚生労働大臣 殿

国立大学法人島根大学長
服 部 泰 直

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

島根大学医学部附属病院では、副病院長（安全管理担当）が医療安全管理業務の総括を任せてきたが、平成 28 年 9 月末までに島根大学医学部附属病院規則を改正し、副病院長（安全管理担当）を医療安全管理責任者として正式に配置する予定である。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

医薬品安全管理責任者の配置及び業務については、現行の島根大学医学部附属病院規則に明文化されているが、平成 28 年 9 月末までに現行規則を改正し、今回の医療法施行規則一部改正に伴う業務を追加する予定である。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 9 月末までに島根大学医学部附属病院規則を改正し、副病院長（安全管理担当）を医療を受ける者に対する説明に関する責任者として配置する予定である。

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

措置済みである。

マニュアル「説明と同意書に求められる要件」に基づいて説明書・同意書を作成している。このマニュアル内で説明書・同意書に盛り込むべき項目・内容について定めている。

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 9 月末までに島根大学医学部附属病院規則を改正し、診療録管理委員会委員長を診療録等の管理に関する責任者として配置する予定である。

6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

死亡事例の報告は措置済みである。

医療に係る安全管理に資するため、病院内で患者が死亡した時又は死産の場合、平成 27 年 12 月より全ての事例において「死亡時・死産時スクリーニングシート」を医療安全管理部へ提出することとしている。医療安全管理部では全症例について検証を行い、検証の結果を病院長へ報告し、毎月開催する医療安全管理委員会に、前月分の状況を報告している。また、死亡事例以外の通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして管理者が定める水準以上事象については、患者への影響度レベル 3b 以上の合併症を報告すべき事例の対象とし平成 28 年 10 月から報告させる。併せて、報告するシステムを構築する予定である。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

通報窓口は設置済みである。

島根大学には、国立大学法人島根大学内部通報に関する規則があり、規則に基づき内部通報・相談窓口が置かれている。病院内で起きたインシデント等について医療安全管理部への報告は以前より行われているが、法令違反等による内部通報としては大学本部に置かれている内部通報窓口へ一本化することで、大学本部との調整はできている。全職員への周知は平成 28 年 9 月末までに行う予定である。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

診療内容のモニタリングについては、診療録管理委員会と医療安全管理部において今後検討し、平成 29 年 3 月末までには診療状況の把握を行う予定である。

また、毎年、年 2 回以上の必須研修会を行い、受講率を上げる取組を行っている。今年度は、そのうち 1 回を e-learning を活用した研修を予定している。研修内容は医療安全に関する基本的な項目を教材とし、受講後テストを行うことで理解度を把握する予定である。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

平成 28 年 4 月から、高難度医療技術を用いた医療を提供する場合の導入プロセスについて WG で検討を行っている。高難度新規医療技術の提供の適否を審議する組織設置のための高難度新規医療技術評価委員会規則（案）を策定した。平成 28 年 12 月末までに医療安全管理委員会を当該高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する担当部門とする予定である。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成 28 年 4 月から、高難度医療技術を用いた医療を提供する場合の導入プロセスについて WG で検討を行っている。高難度新規医療技術による医療の提供に関する要項（案）を策定し、従業者が遵守すべき事項、担当部門である医療安全管理委員会が確認すべき事項についてまとめた。平成 28 年 12 月末までに、規則制定の手続きを行う予定である。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

平成 28 年 4 月から、未承認新規医薬品等の使用に係る手続き等について、WG で検討を行っている。未承認新規医薬品等の使用の適否を審議するための未承認新規医薬品等・適応外使用評価委員会規則（案）を策定した。平成 28 年 12 月末までに医療安全管理委員会を当該未承認新規医薬品等の使用の適否等を決定する担当部門とする予定である。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成 28 年 4 月から、未承認新規医薬品の使用に係る手続き等について WG で検討を行っている。未承認新規医薬品等・適応外使用による医療の提供に関する要項（案）を策定し、従事者が遵守すべき事項、担当部門である医療安全管理委員会が確認すべき事項についてまとめた。平成 28 年 12 月末までに、規則制定の手続きを行う予定である。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

平成 28 年 4 月から、外部監査委員会設置に向けて WG で検討を行っている。医療安全に係る外部監査に関する規則（案）を策定し、外部監査の目的、外部監査委員会の設置等についてまとめた。外部監査委員会は学長が設置者であるので、大学本部との調整も必要であり、平成 29 年 3 月末までに、大学本部と連携を取りつつ規則制定の手続きを行う予定である。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

国立大学附属病院医療安全管理協議会幹事会の議題に、現行の国立大学病院間で行われている相互チェックとの統合について提案を行った。幹事会后に、中・四国地区の幹事大学から、今年度は通常の相互チェックは行わないと回答があった。特定機能病院相互のピアレビューの実施については不明であるが、正式通知に従い対応する予定である。

15. 職員研修を実施するための予定措置

医療法施行規則の一部改正に伴う本院の医療安全管理体制の見直しについて、平成 29 年 3 月までに職員研修を実施し説明する予定である。また、外部の委員を含む監査委員会で審議された結果、及び医療に係る安全管理については是正措置を講ずることを求められた事案、並びに高度の医療を提供するために必要な事項等について、職員研修を実施し、注意喚起、啓発等を行う予定である。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

今後、国立大学附属病院長会議が実施を検討されているとのことなので、実施が決まれば参加する予定である。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（8）名
- うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（3）名
- うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

現在、専従看護師は配置済みである。

平成28年4月から、医師、薬剤師の専従配置に向けてWGで検討を行っている。専従医師については、平成28年9月以降学内外の公募を行い、平成29年4月より配置する予定である。人員が確保されるまでは、病院内で専従配置する予定である。専従薬剤師は、平成29年4月より配置する予定である。